

藤沢市外国人市民意識調査

報告書 (概要版)

2011年(平成23年)11月

藤沢市

目 次

第1章 調査概要

1. 調査の目的	1章-1
2. 調査方法	1章-1
3. 調査項目	1章-1
4. 回収結果	1章-2
5. 集計にあたって	1章-2
6. 調査フロー図	1章-3

第2章 調査結果

1. 回答者の属性	2章-1
1-1 性別と年齢	2章-1
1-2 国籍	2章-1
1-3 在留資格	2章-2
1-4 就業状態	2章-2
1-5 日本での居住時期と市での居住時期	2章-3
1-6 住まいの形態	2章-4
1-7 市に住む理由	2章-4
1-8 市に住む予定	2章-5
2. 日常生活について	2章-5
2-1 現在の生活環境の満足度	2章-5
2-2 よく利用する公共施設	2章-6
2-3 各種制度(健康保険、雇用保険、介護保険、年金)の認知度	2章-6
2-4 税金(納税通知書)に関する理解度	2章-7
2-5 困っていることや不安なことの内容	2章-7
2-6 困った時の相談相手	2章-8
3. ことばについて	2章-8
3-1 普段の生活でよく使う言語	2章-8
3-2 本人の日本語習熟度	2章-9
3-3 日本語の通訳・翻訳の必要性	2章-11
3-4 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面	2章-11
4. 情報について	2章-12
4-1 生活に必要な情報の入手方法	2章-12
4-2 市の情報の入手方法	2章-12
4-3 市の多言語による情報提供の認知度	2章-13

5. 防災などについて	2章-13
5-1 防災訓練への参加状況	2章-13
5-2 避難場所の認知度	2章-14
5-3 日常的な災害への備え	2章-14
5-4 緊急時の連絡先(警察、消防)の認知度	2章-15
6. 子育てについて	2章-15
6-1 子ども(0~5歳、6~14歳)の有無	2章-15
6-2 子ども(0~5歳)の居場所	2章-16
6-3 子ども(6~14歳)の日本語習熟度	2章-17
6-4 子ども(6~14歳)の中学校卒業後の進路希望	2章-17
6-5 必要と思われる子育て支援の内容	2章-18
7. 地域活動について	2章-18
7-1 自治会や地域の活動への参加状況	2章-18
7-2 講座や活動への参加意欲	2章-19
7-3 地域主体のまちづくりへの参加意欲	2章-19

第 1 章 調 査 概 要

第1章 調査概要

1. 調査の目的

市内の外国人登録者数は、5,763人〔2011年（平成23年）4月1日現在〕である。近年、やや減少傾向にあるものの、言葉の問題のみならず、就労や就学、健康・医療に関することや地域との関わり方等、様々な問題が行政窓口や支援団体に寄せられている。これまで、日本人市民を対象とした意識調査は行われてきたが、外国人市民を対象とする調査はごく小規模にとどまっていた。

新総合計画のめざす方向性の一つである「共に生き、共に創る地域社会の創出」に基づき、誰もが住みよい藤沢づくりの実現を図るため、当調査により、外国人市民の意見等を知り、統計的に把握することで今後の市政運営に反映させることを目的とする。

なお、当調査事業は、国の地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）を活用して実施するものである。

2. 調査方法

- (1) 調査対象 : 2011年（平成23年）5月1日現在、外国人登録原票のある満18歳以上の外国人市民全員
- (2) 調査地域 : 藤沢市全域
- (3) 配布数 : 4,964人
- (4) 調査方法 : 郵送調査法
※調査対象者に、国籍別に分類した対応言語とやさしい日本語（平易かつルビ付き）の調査票を郵送し、対象者が回答を記入した後、郵送により回収
- (5) 調査期間 : 2011年（平成23年）6月21日（火）～2011年（平成23年）7月13日（水）
- (6) 質問数 : 36問及び自由回答欄
- (7) 実施主体 : 藤沢市経営企画部共生社会推進課
- (8) 調査委託機関 : 昭和株式会社

3. 調査項目

- 日常生活について : 現在の生活環境の満足度、よく利用する公共施設、各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度、税金（納税通知書）に関する理解度、困っていることや不安なことの内容、困ったときの相談相手
- ことばについて : 普段の生活でよく使う言語、本人の日本語習熟度、日本語の通訳・翻訳の必要性（頼む相手など）、日本語の通訳・翻訳が必要となる場面
- 情報について : 生活に必要な情報の入手方法、市の情報の入手方法、市の多言語による情報提供の認知度
- 防災などについて : 防災訓練への参加状況、避難場所の認知度、日常的な災害への備え、緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度

- 子育てについて : 子ども(0~5歳、6歳~14歳)の有無、子ども(0~5歳)の居場所、子ども(6歳~14歳)の日本語習熟度、子ども(6歳~14歳)の中学校卒業後の進路希望、必要と思われる子育て支援の内容
- 地域活動について : 自治会や地域の活動への参加状況、講座や活動への参加意欲、地域主体のまちづくりへの参加意欲
- 回答者の属性について : 性別、年齢、国籍、在留資格、就業状態、日本での居住時期、市での居住時期、住まいの形態、市に住む理由、市に住む予定

4. 回収結果

調査対象数 : 4,964人

実対象者数 : 4,459人

※調査対象数から未着(宛先不明等で戻ってきたもの)を除いた数

調査票回収数 : 953人

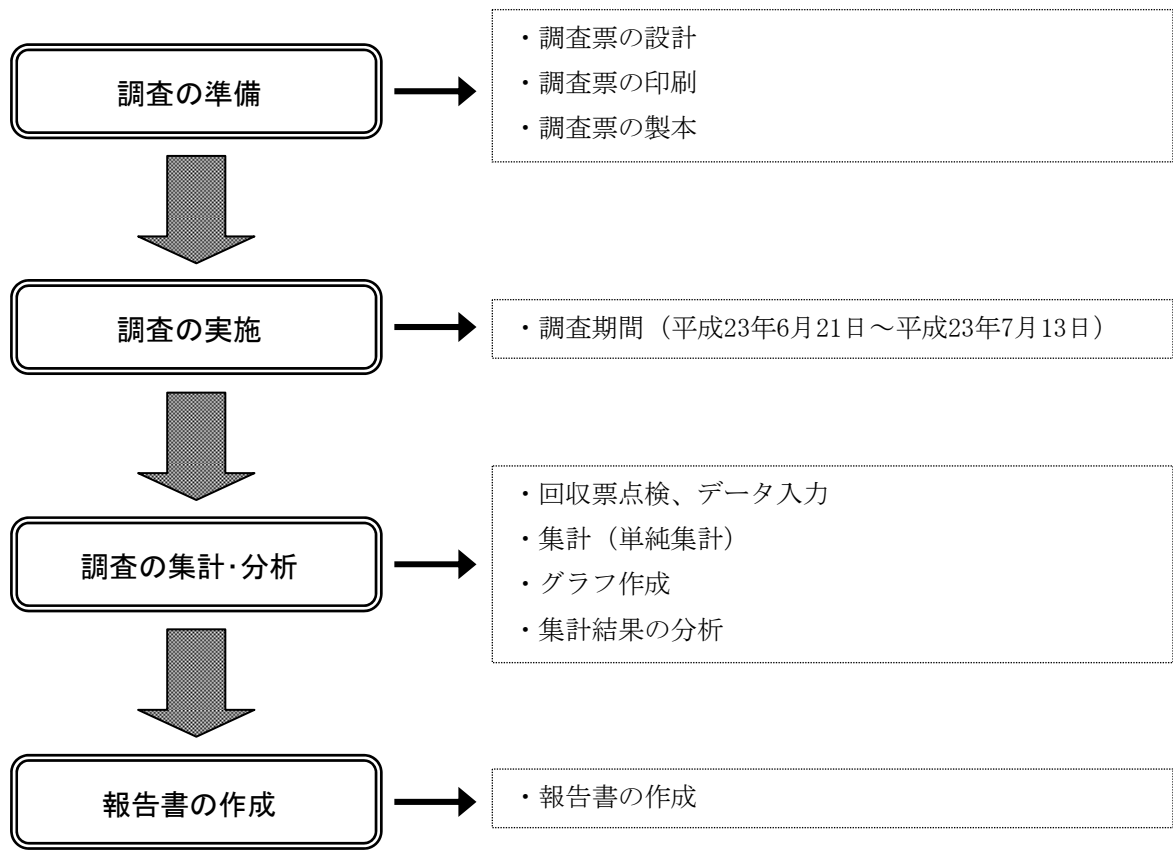
回収率 : 21.4%

	発送数	未着(返戻)	実対象者数	回収数	回収率
スペイン語	865	133	732	152	20.8%
ポルトガル語	584	77	507	112	22.1%
英語	1,505	177	1,328	269	20.3%
中国語	913	83	830	169	20.4%
ハングル	309	16	293	84	28.7%
ベトナム語	240	10	230	63	27.4%
日本語	548	9	539	104	19.3%
計	4,964	505	4,459	953	21.4%

5. 集計にあたって

- ・回答の比率は、それぞれの設問の回答数を基礎としており、これを100%とした。
- ・複数回答の設問についても、比較が行いやすいよう回答総件数を母数とする百分比で示す。
- ・比率は全て百分比で表し、小数点第2位を四捨五入している。このため、百分比の合計が100.0%にならないことがある。また、個々の比率を合計した場合の数値と、個々の実数を合計した場合の比率を示す数値が一致しないことがある。

6. 調査フロー図



第2章 調 査 結 果

第2章 調査結果

1. 回答者の属性

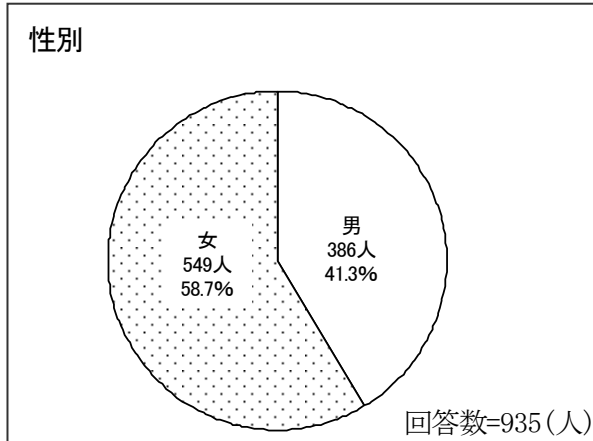
1-1 性別と年齢

Q26 あなたの性別は、次のどちらですか。(〇は1つだけ)

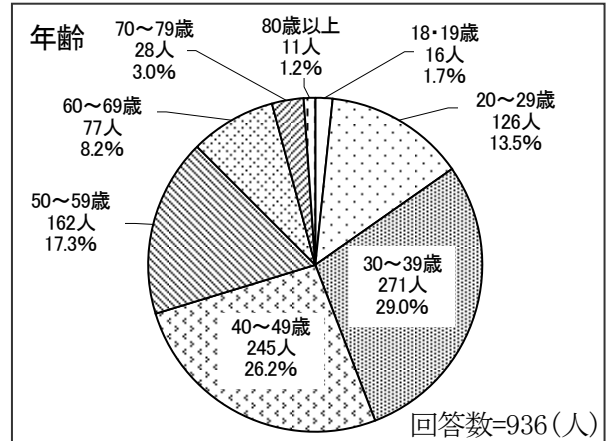
Q27 あなたの年齢は、次のどれですか。(〇は1つだけ)

■ 図1-1 性別と年齢

無回答数=18(人)



無回答数=17(人)



<結果概要>

性別は、「女性」が58.7%、「男性」が41.3%となっている。

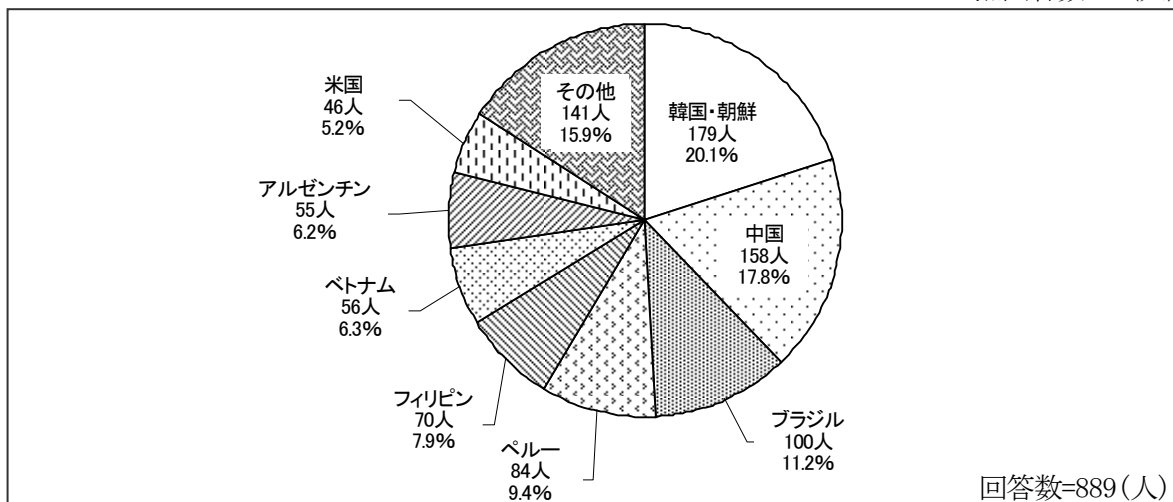
年齢は、「30～39歳」が29.0%と最も多くなっている。次いで「40～49歳」の26.2%、「50～59歳」の17.3%となっている。

1-2 国籍

Q28 あなたの国籍を書いてください。

■ 図1-2 国籍

無回答数=64(人)



<結果概要>

国籍は、「韓国・朝鮮」が20.1%と最も多くなっている。次いで「中国」の17.8%、「ブラジル」の11.2%、「ペルー」の9.4%、「フィリピン」の7.9%となっている。その他として、以下の国籍が挙げられている。

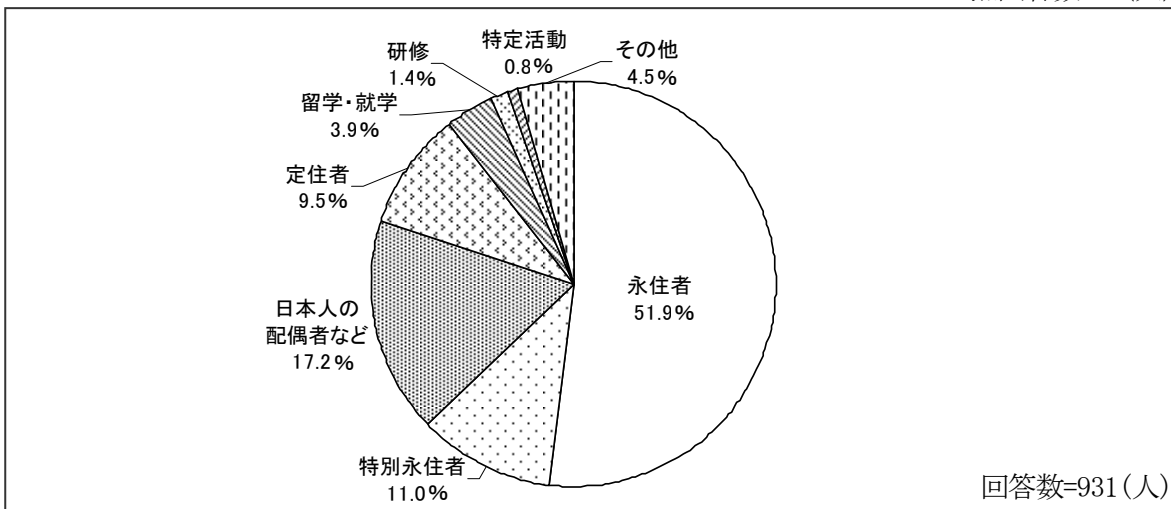
タイ (24)、インドネシア (18)、イギリス (17)、カナダ (11)、スリランカ (11)、モンゴル (7)、インド (5)、フランス (5)、ドイツ (4)、ナイジェリア (4)、バングラデシュ (4)、ラオス (4)、オーストラリア (3)、カンボジア (3)、マレーシア (3)、ロシア (3)、イタリア (2)、オーストリア (2)、アイルランド (1)、イラン (1)、オランダ (1)、コロンビア (1)、スペイン (1)、パキスタン (1)、パラグアイ (1)、ベルギー (1)、南アフリカ (1)、ミャンマー (1)、ルーマニア (1)

1-3 在留資格

Q29 あなたの在留資格はどれですか。(〇は1つだけ)

■ 図1-3 在留資格

無回答数=22(人)



<結果概要>

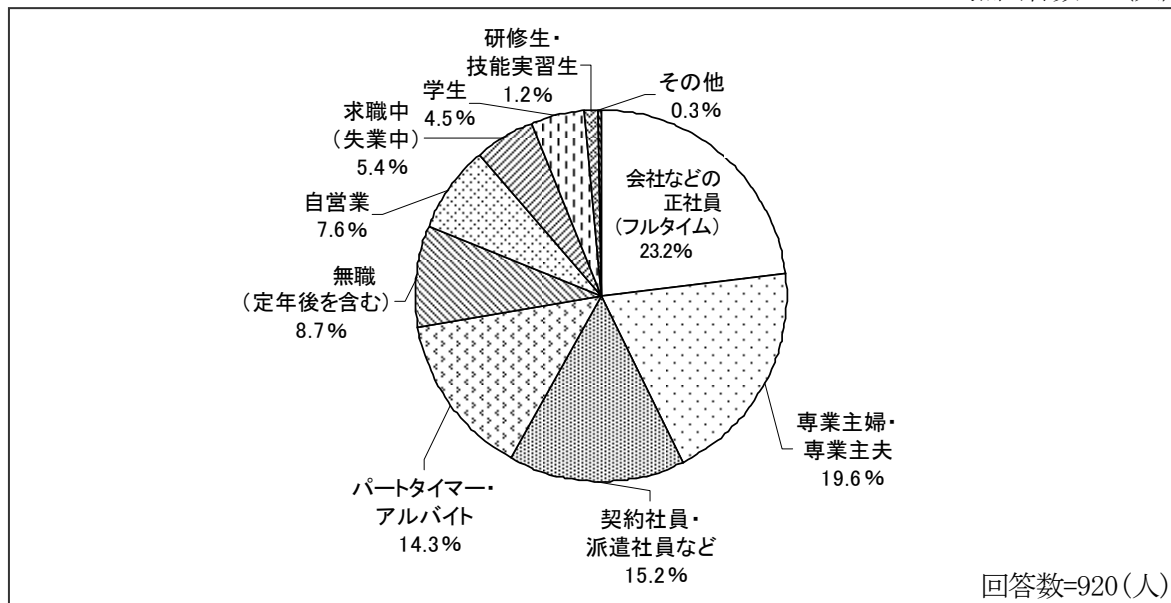
在留資格は、「永住者」が51.9%と最も多くなっている。次いで「日本人の配偶者など」の17.2%、「特別永住者」の11.0%となっている。

1-4 就業状態

Q30 あなたの仕事は、次のどれですか。(〇は1つだけ)

■ 図1-4 就業状態

無回答数=33(人)



<結果概要>

就業状態は、「会社などの正社員(フルタイム)」が23.2%と最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」の19.6%、「契約社員・派遣社員」の15.2%となっている。また、「契約社員・派遣社員」と「パートタイマー・アルバイト」の14.3%を合わせると、29.5%が非正規雇用となっている。

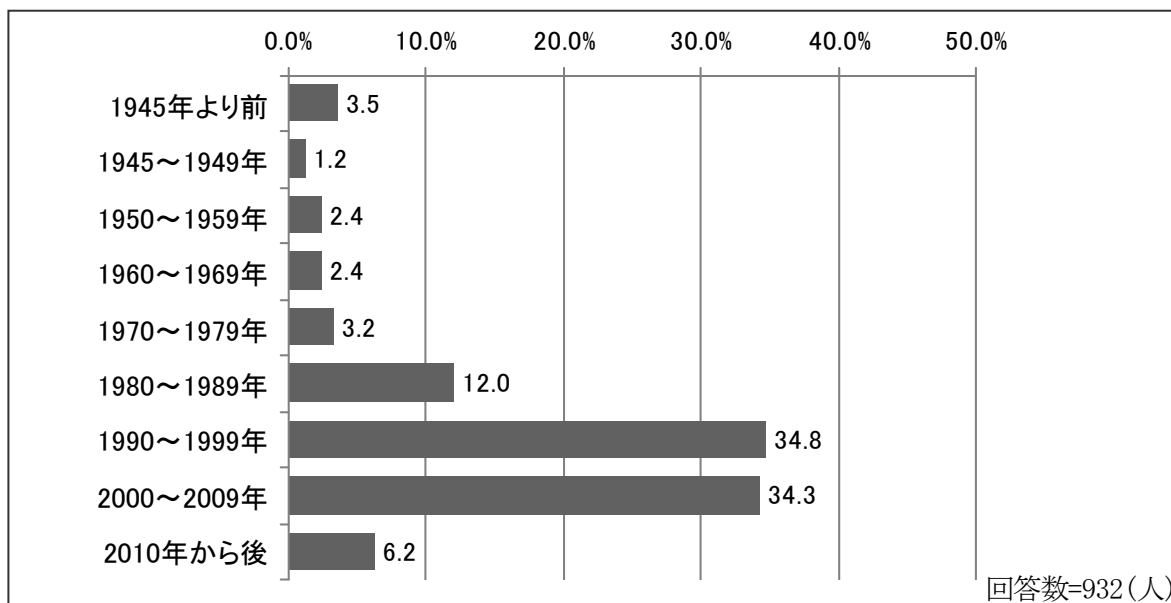
1-5 日本での居住時期と市での居住時期

Q31 あなたは、日本にいつごろから住んでいますか。(〇は1つだけ)

Q32 あなたは、藤沢市にいつごろから住んでいますか。(〇は1つだけ)

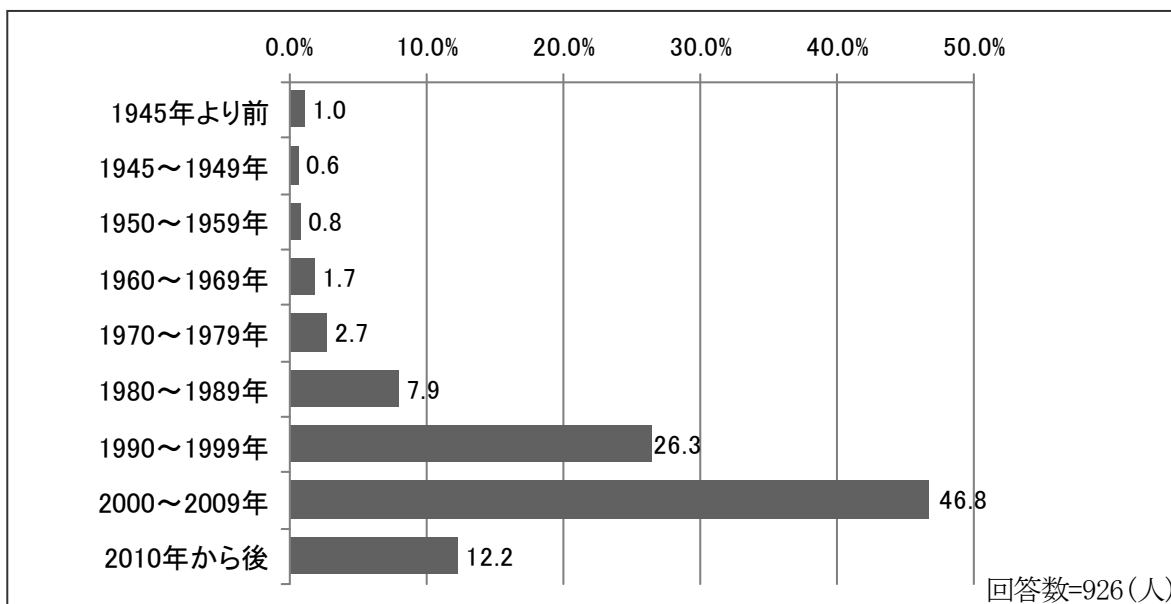
■ 図1-5 日本での居住時期

無回答数=21(人)



■ 図1-6 市での居住時期

無回答数=27(人)



<結果概要>

日本での居住時期は、「1990～1999年」が34.8%と最も多く、次いで「2000～2009年」の34.3%、「1980～1989年」の12.0%となっている。1990～2009年から日本に居住している人の合計は69.1%となっている。

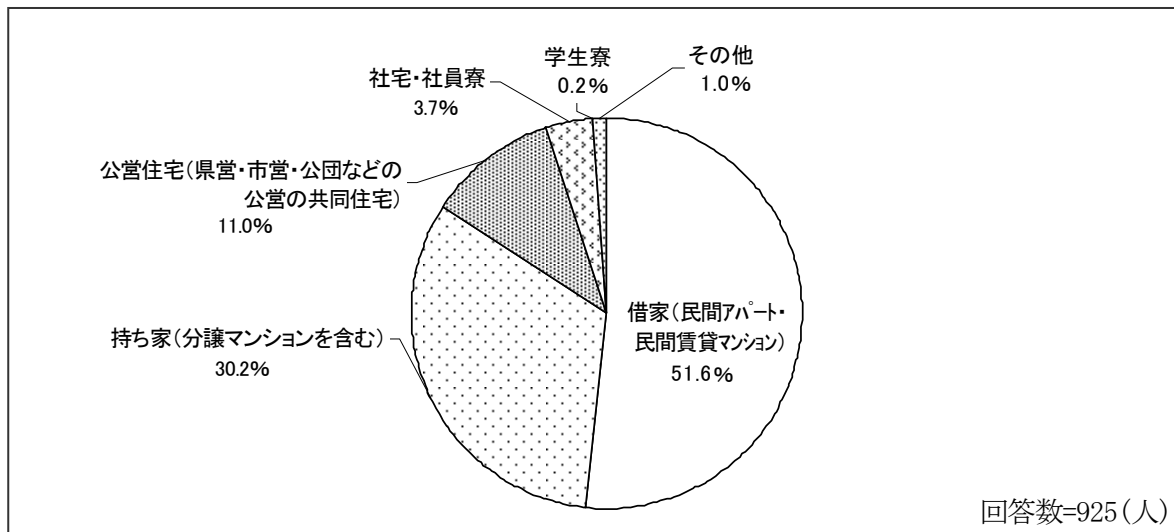
市での居住時期は「2000～2009年」が46.8%と最も多く、次いで「1990～1999年」の26.3%、「2010年から後」の12.2%となっている。1990年から市に居住している人の合計は85.3%となっている。

1-6 住まいの形態

Q33 現在お住まいの住宅は、次のどれですか。(〇は1つだけ)

■ 図1-7 住まいの形態

無回答数=28(人)



<結果概要>

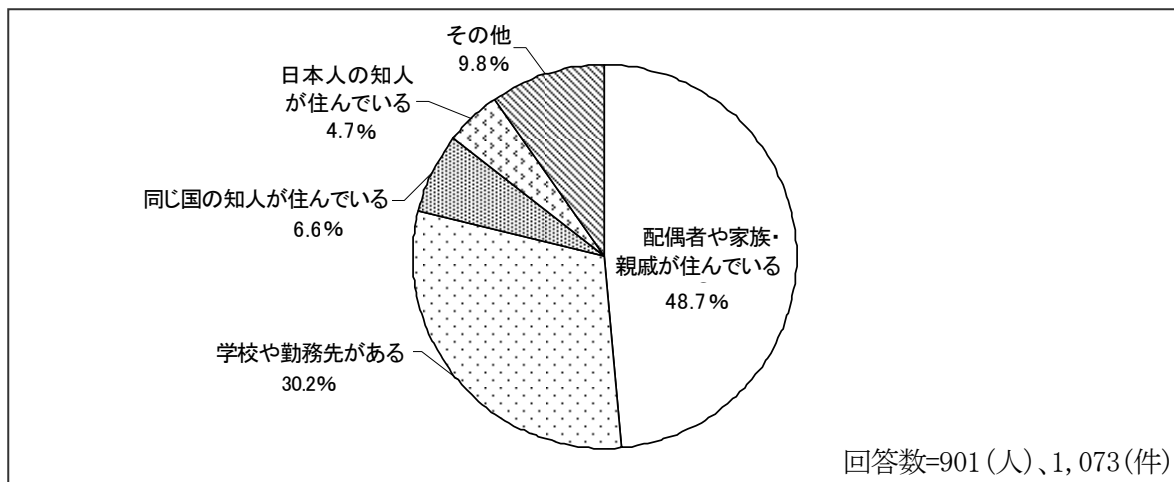
住まいの形態は、「借家(民間アパート・民間賃貸マンション)」が51.6%と最も多く、次いで「持ち家(分譲マンションを含む)」の32.5%、「公営住宅(県営・市営・公団などの公営の共同住宅)」の11.0%となっている。

1-7 市に住む理由

Q34 あなたが、藤沢市に住む理由は何ですか。(〇はいくつでも)

■ 図1-8 市に住む理由

無回答数=52(人)



<結果概要>

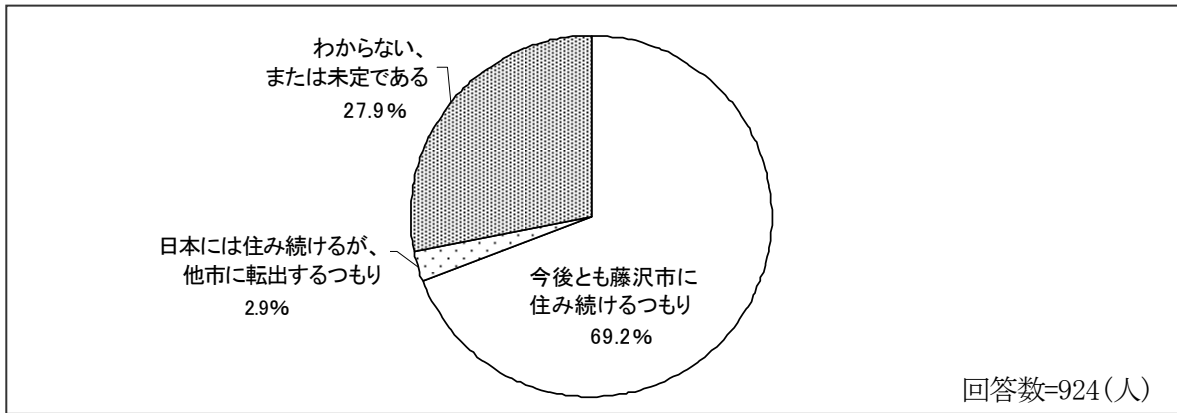
市に住む理由は、「配偶者や家族・親戚が住んでいる」が48.7%と最も多く、次いで「学校や勤務先がある」が30.2%となっている。その他として、「まちが好き」、「交通の便など利便性がよい」が多く挙げられている。

1-8 市に住む予定

Q35 今後、藤沢市にどのくらいお住まいになる予定ですか。(〇は1つだけ)

■ 図1-9 市に住む予定

無回答数=29(人)



<結果概要>

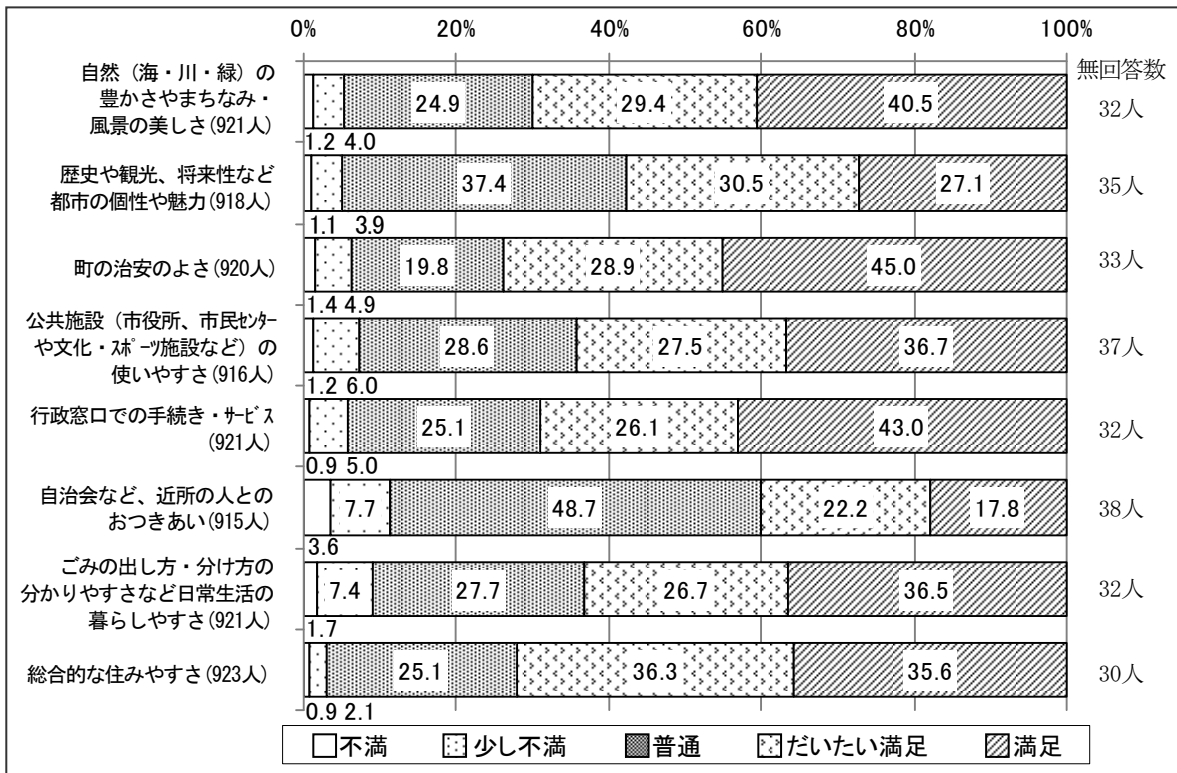
市に住む予定は、「今後とも藤沢市に住み続けるつもり」が69.2%と最も多く、「日本に住み続けるが、他市に転出するつもり」は2.9%となっている。

2. 日常生活について

2-1 現在の生活環境の満足度

Q1 あなたは、現在の生活環境について、どれくらい満足していますか。(〇は1つずつ)

■ 図2-1 現在の生活環境の満足度



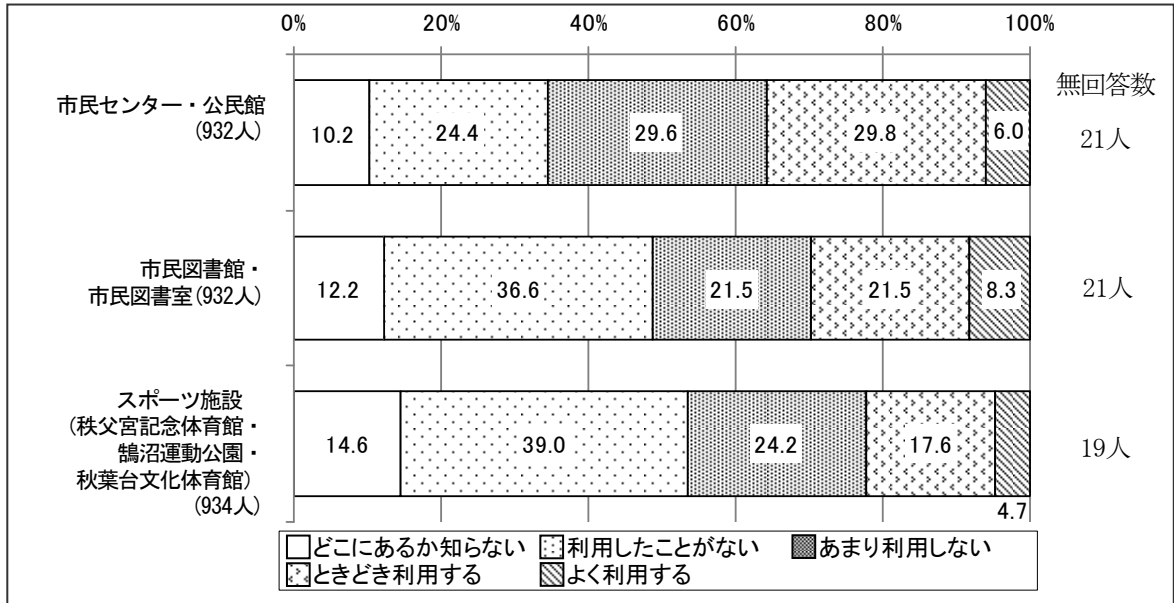
<結果概要>

現在の生活環境の満足度は、「満足」、「だいたい満足」が多く、総合的な住みやすさは「満足」、「だいたい満足」が71.9%と多くなっている。一方、自治会など、近所の人とおつきあいは「満足」、「だいたい満足」という回答が40.0%と比較的低くなっている。

2-2 よく利用する公共施設

Q2 あなたは、次の公共施設を利用したことがありますか。(〇は1つずつ)

■ 図2-2 よく利用する公共施設



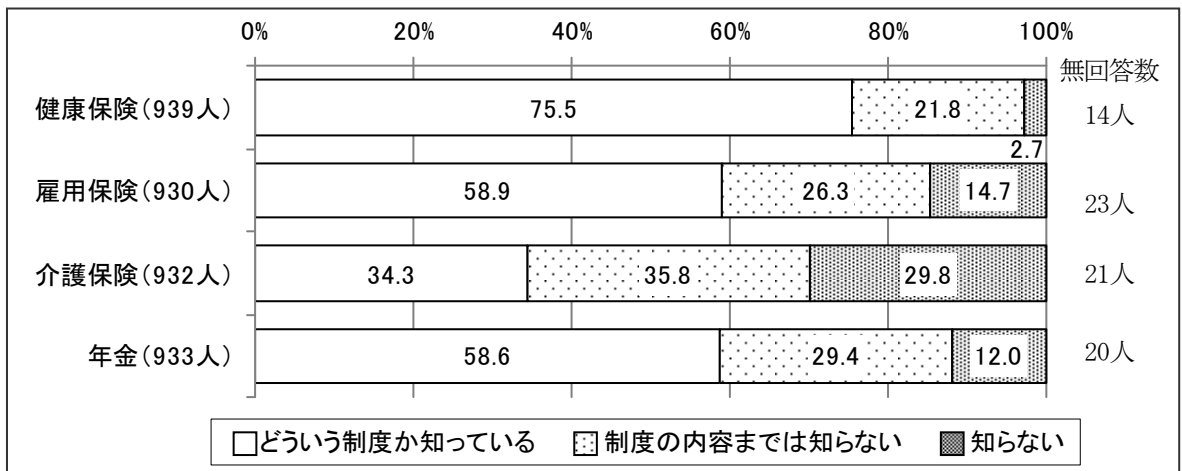
<結果概要>

よく利用する公共施設は、市民センター・公民館では「ときどき利用する」が29.8%と最も多く、市民図書館・市民図書室、スポーツ施設（秩父宮記念体育館・鶴沼運動公園・秋葉台文化体育館）（以下、スポーツ施設）では「利用したことがない」がそれぞれ36.6%、39.0%と最も多くなっている。

2-3 各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度

Q3 あなたは、次の制度について知っていますか。(〇は1つずつ)

■ 図2-3 各種制度（健康保険、雇用保険、介護保険、年金）の認知度



※ 健康保険：病気やけがに備えて普段から保険料を払い、必要な時に医療費の一部に充てる制度
 雇用保険：失業した人などに、生活の安定と就職を助けるためお金をもらえる制度
 介護保険：40歳以上の人々が保険料を払い、必要な時に介護サービスを受けられる制度
 年金：20歳以上60歳未満の加入し、高齢期の基本的な生活を保障する制度

<結果概要>

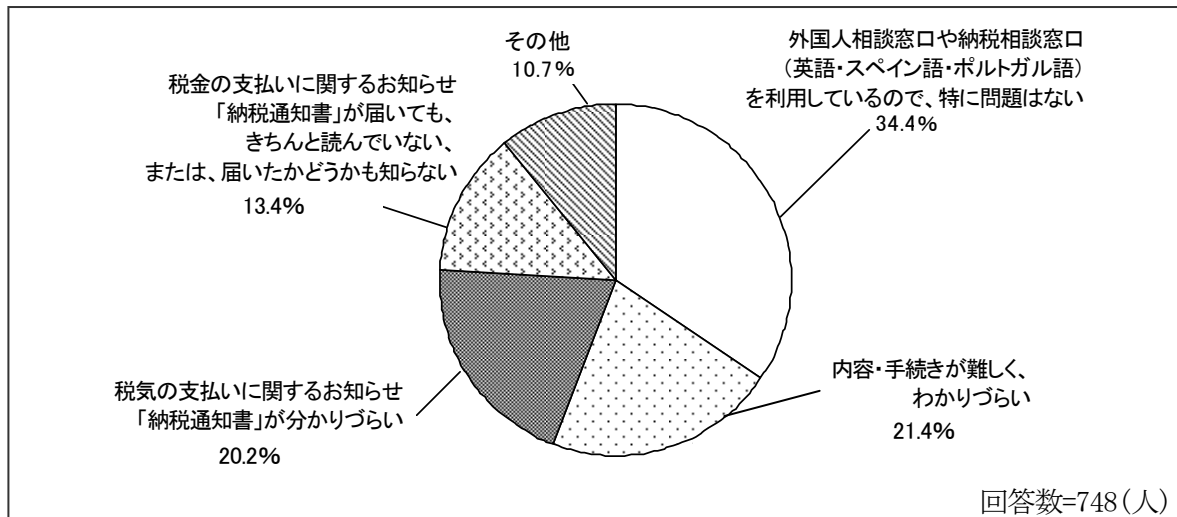
各種制度の認知度は、健康保険、雇用保険、年金では「どういう制度が知っている」がそれぞれ75.5%、58.9%、58.6%と最も多くなっている。一方、介護保険では「制度の内容まで知らない」が35.8%と最も多くなっている。

2-4 税金（納税通知書）に関する理解度

Q4 あなたは、藤沢市の税金及びその支払いについて、どのように感じていますか。（〇は1つだけ）

■ 図2-4 税金（納税通知書）に関する理解度

無回答数=205(人)



<結果概要>

税金に関する理解度は、「外国人相談窓口や納税相談窓口（英語・スペイン語・ポルトガル語）を利用しているので、特に問題はない」が34.4%と最も多くなっている。次いで、「内容・手続きが難しく、わかりづらい」の21.4%、「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”がわかりづらい」の20.2%、「税金の支払いに関するお知らせ“納税通知書”が届いても、きちんと読んでいない、または、届いたかどうか知らない」の13.4%となっている。その他として、「会社や家族が手続きを行っているため問題ない」、「税金が高い」が挙げられている。

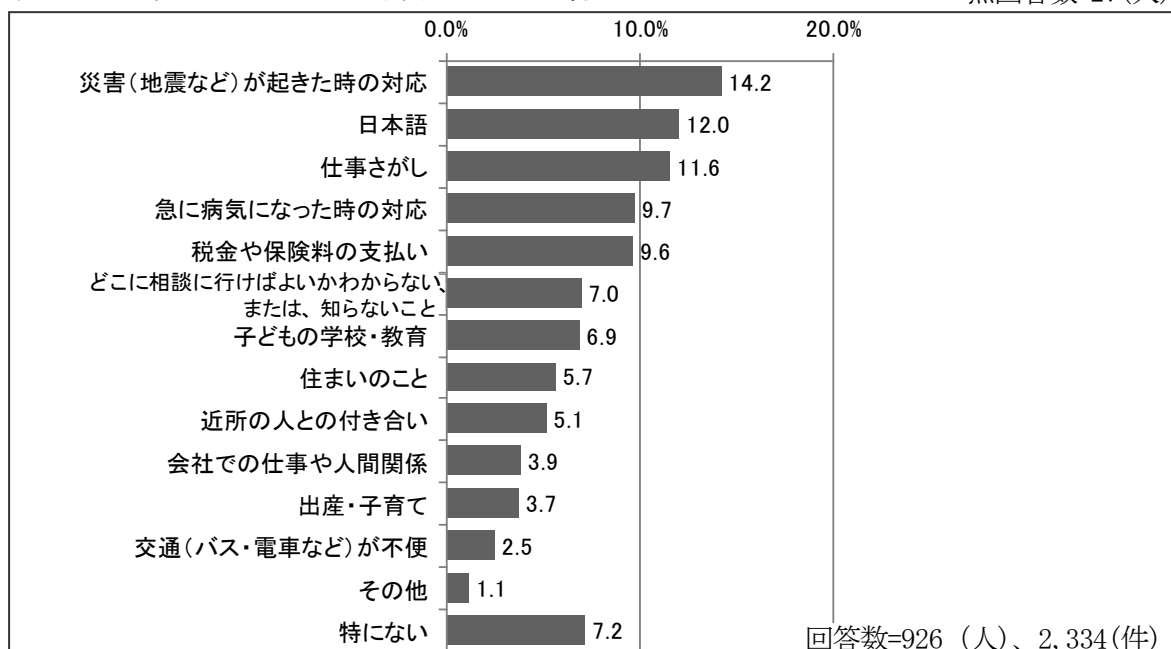
なお、当設問に対する無回答数が比較的多く見られるが、就業先の会社による税金手続き等もあることから、「納税通知書」自体に馴染みがない、あるいは、わからないなどに起因していることが推測される。

2-5 困っていることや不安なことの内容

Q5 あなたが、普段の生活で困っていることや不安なことは何ですか。（〇はいくつでも）

■ 図2-5 困っていることや不安なことの内容

無回答数=27(人)



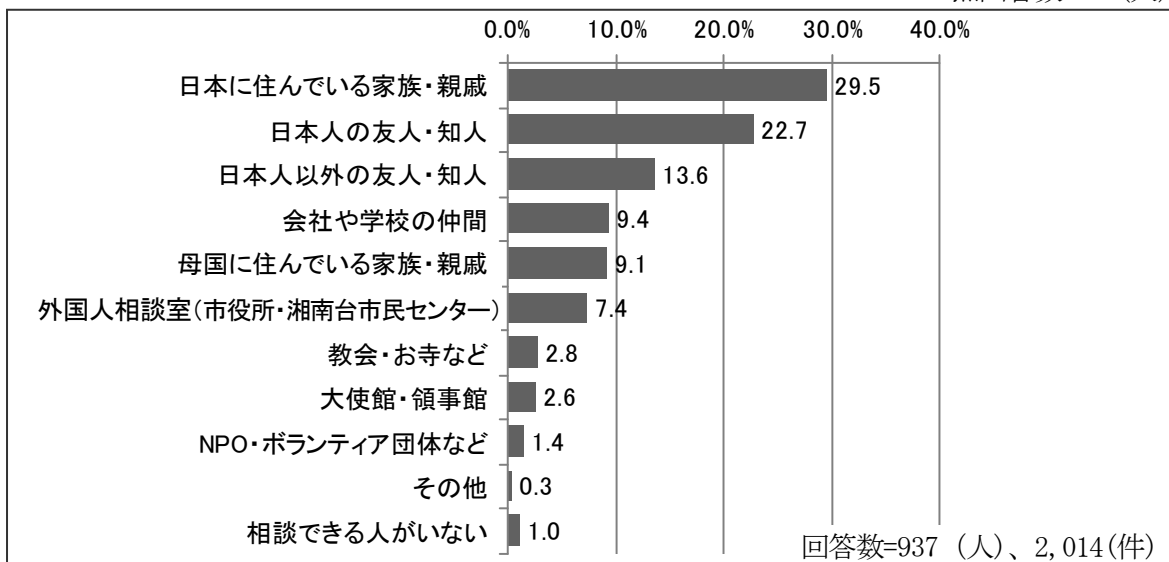
<結果概要>

困っていることや不安なことの内容は、「災害（地震など）が起きた時の対応」が14.2%と最も多くなっている。次いで、「日本語」の12.0%、「仕事さがし」の11.6%、「急に病気になった時の対応」の9.7%、「税金や保険料の支払い」の9.6%となっている。

2-6 困った時の相談相手

Q6 あなたは、普段の生活で困った時、誰に相談しますか。（〇はいくつでも）

■ 図2-6 困った時の相談相手 無回答数=16（人）



<結果概要>

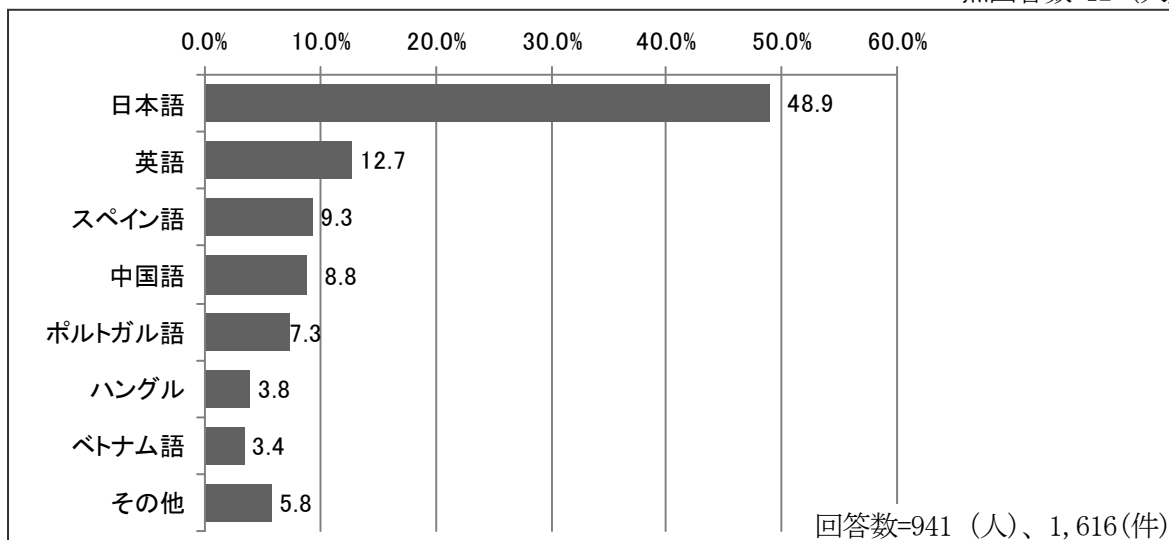
困った時の相談相手は、「日本に住んでいる家族・親戚」が29.5%と最も多くなっている。次いで、「日本人の友人・知人」の22.7%、「日本人以外の友人・知人」の13.6%、「会社や学校の仲間」の9.4%、「母国に住んでいる家族・親戚」の9.1%となっている。

3. ことばについて

3-1 普段の生活でよく使う言語

Q7 あなたが、普段の生活で、よく使うことばはどれですか。（〇はいくつでも）

■ 図3-1 普段の生活でよく使う言語 無回答数=12（人）



<結果概要>

普段の生活でよく使う言語は、「日本語」が48.9%と最も多くなっている。次いで、「英語」の12.7%、「スペイン語」の9.3%となっている。国籍別に普段の生活でよく使う言語を見ると、韓国・朝鮮、米国、中国では「日本語」、ブラジルでは「ポルトガル語」、ペルーでは「スペイン語」、ベトナムでは「ベトナム語」が多くなっている。なお、アルゼンチンでは「日本語」と「スペイン語」が同率で多くなっている。その他として、以下の言語が挙げられている。

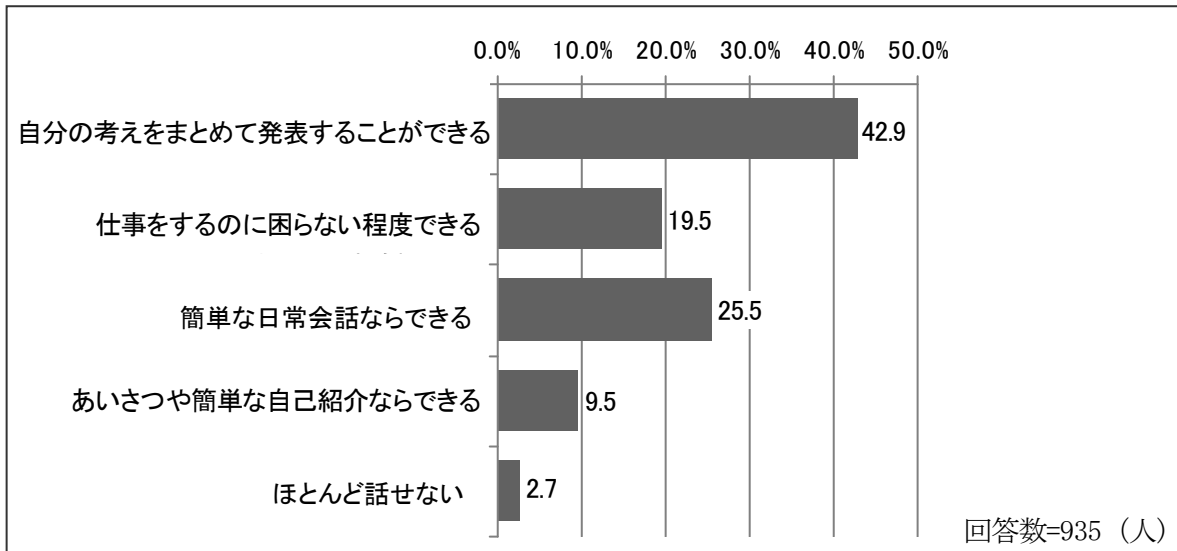
タガログ語 (31)、タイ語 (13)、インドネシア語 (12)、フランス語 (7)、ロシア語 (5)、ヒンディ語 (4)、イタリア語 (3)、タミール語 (3)、ドイツ語 (3)、オランダ語 (2)、シンハラ語 (2)、パンパンガ語 (2)、ベンガル語 (2)、ネパール語 (2)、ゲール語 (1)、カンボジア語 (1)、クメール語 (1)、シンディ語 (1)、タガール語 (1)、パキスタン語 (1)、ビサヤ語 (1)、地方言語 (1) ※一部、複数回答あり

3-2 本人の日本語習熟度

Q8 あなたは、どのくらい日本語ができますか。a.~d.のそれぞれについて、一番近いと思うものはどれですか。(〇は1つずつ)

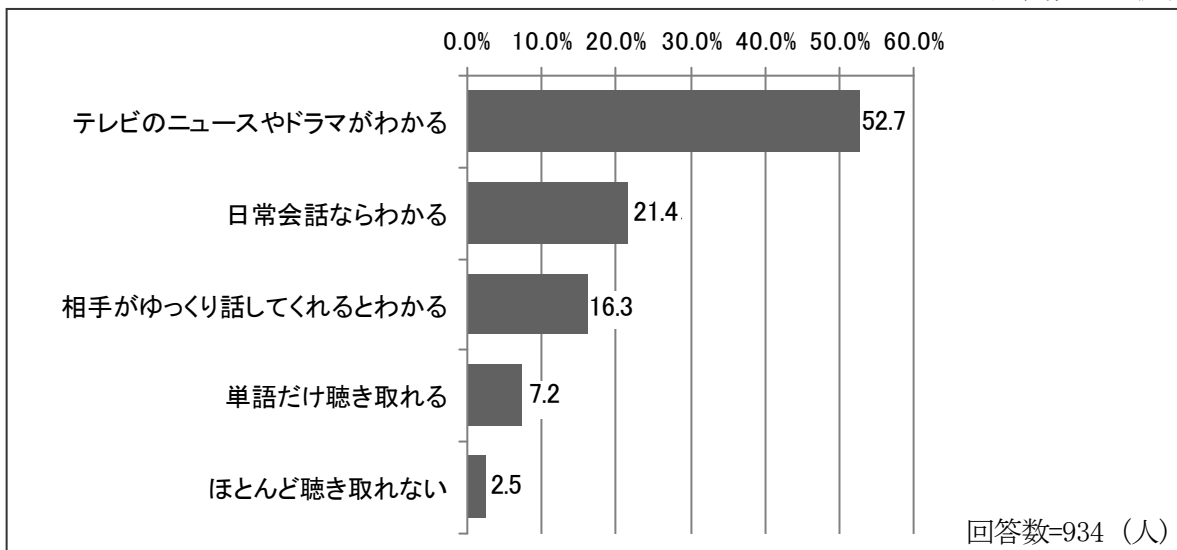
■ 図3-2 本人の日本語習熟度（話すこと）

無回答数=18 (人)



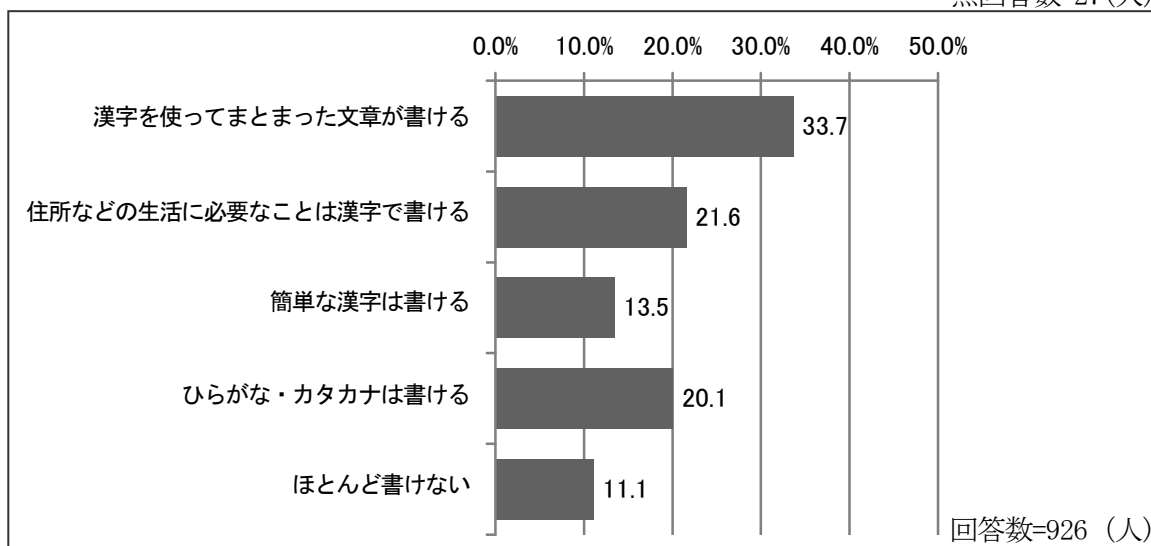
■ 図3-3 本人の日本語習熟度（聴くこと）

無回答数=19 (人)



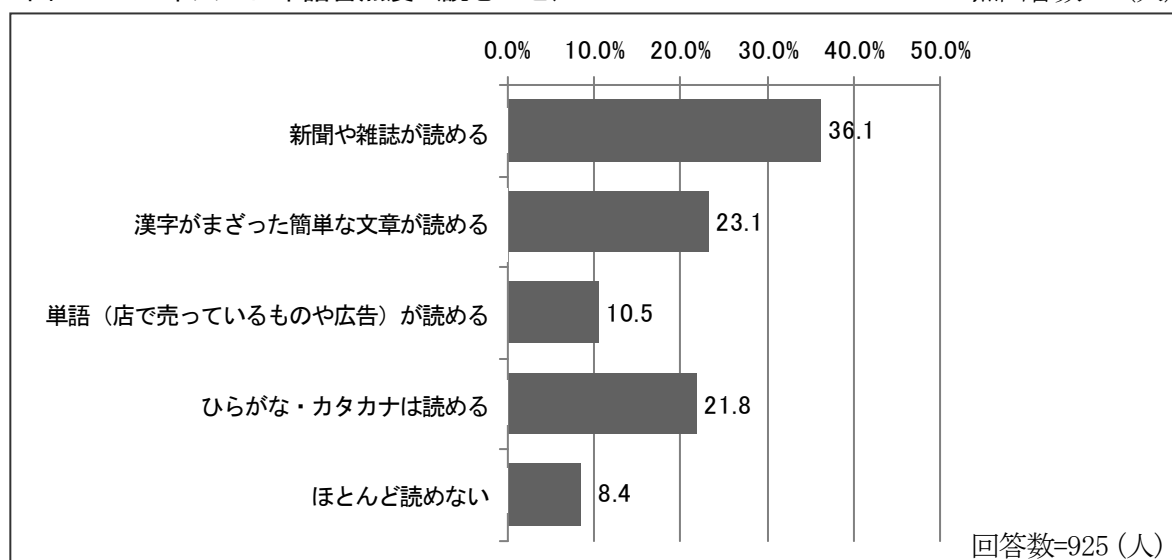
■ 図3-4 本人の日本語習熟度（書くこと）

無回答数=27(人)



■ 図3-5 本人の日本語習熟度（読むこと）

無回答数=28(人)



<結果概要>

本人の日本語習熟度（話すこと）は、「自分の考えをまとめて発表することができる」が42.9%と最も多くなっている。次いで、「簡単な日常会話ならできる」の25.5%、「仕事をするのに困らない程度できる」の19.5%となっている。

本人の日本語習熟度（聴くこと）は、「テレビのニュースやドラマがわかる」が52.7%と最も多くなっている。次いで、「日常会話ならわかる」の21.4%、「相手がゆっくり話してくれるとわかる」の16.3%となっている。

本人の日本語習熟度（書くこと）は、「漢字を使ってまとまった文章が書ける」が33.7%と最も多くなっている。次いで、「住所などの生活に必要なことは漢字で書ける」の21.6%、「ひらがな・カタカナは書ける」の20.1%となっている。一方、「ほとんど書けない」が11.1%となっている。

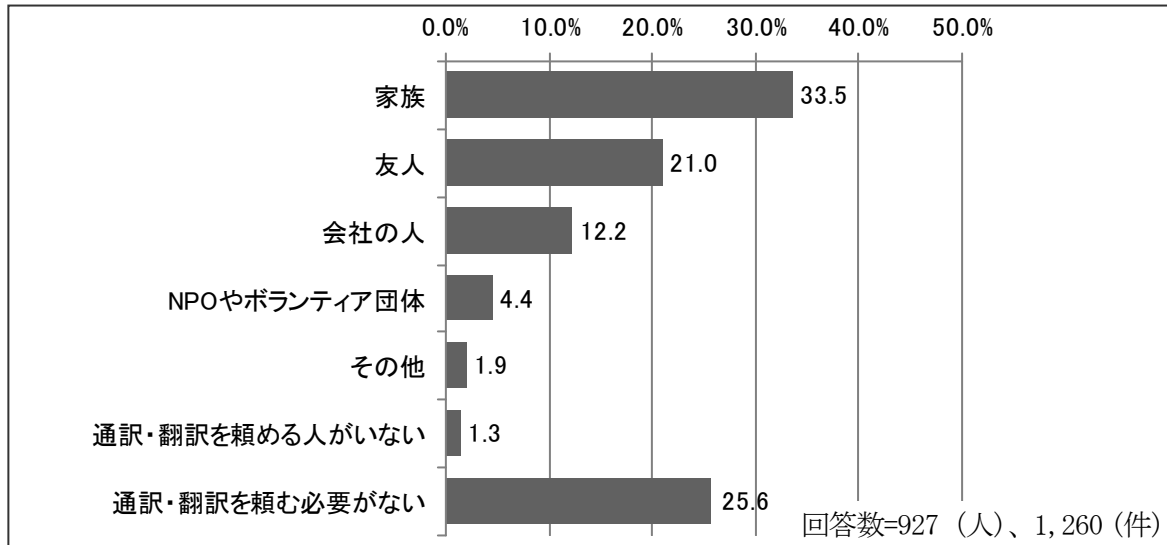
本人の日本語習熟度（読むこと）は、「新聞や雑誌が読める」が36.1%と最も多くなっている。次いで、「漢字がまざった簡単な文章が読める」の23.1%、「ひらがな・カタカナは読める」の21.8%となっている。

3-3 日本語の通訳・翻訳の必要性

Q9 あなたは、誰に日本語の通訳・翻訳を頼むことがありますか。(〇はいくつでも)

■ 図3-6 日本語の通訳・翻訳の必要性

無回答数=26(人)



<結果概要>

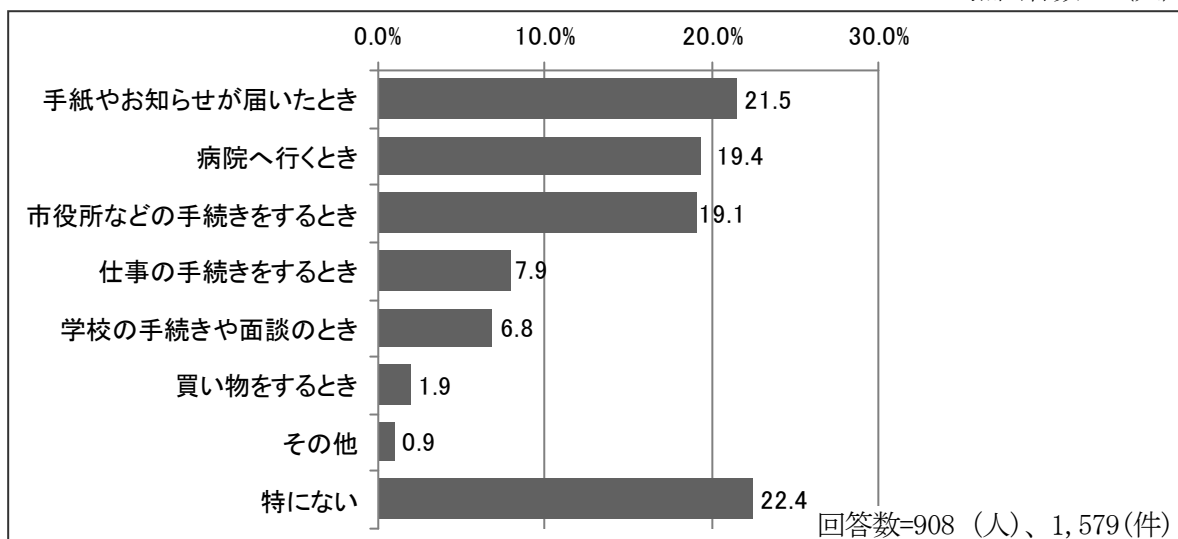
日本語の通訳・翻訳の必要性は、「家族」が33.5%と最も多くなっている。次いで、「通訳・翻訳を頼む必要がない」の25.6%、「友人」の21.0%となっている。その他として、「外国人相談室」が挙げられている。

3-4 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面

Q10 あなたは、どんな時に、日本語の通訳・翻訳を頼みますか。また、頼める人がいない人は、どんな時に、通訳・翻訳を頼みたいと思いますか。(〇はいくつでも)

■ 図3-7 日本語の通訳・翻訳が必要となる場面

無回答数=45(人)



<結果概要>

日本語の通訳・翻訳が必要となる場面は、「特にない」が22.4%と最も多くなっている。次いで、「手紙やお知らせが届いたとき」の21.5%、「病院へ行くとき」の19.4%、「市役所などの手続きをするとき」の19.1%となっている。

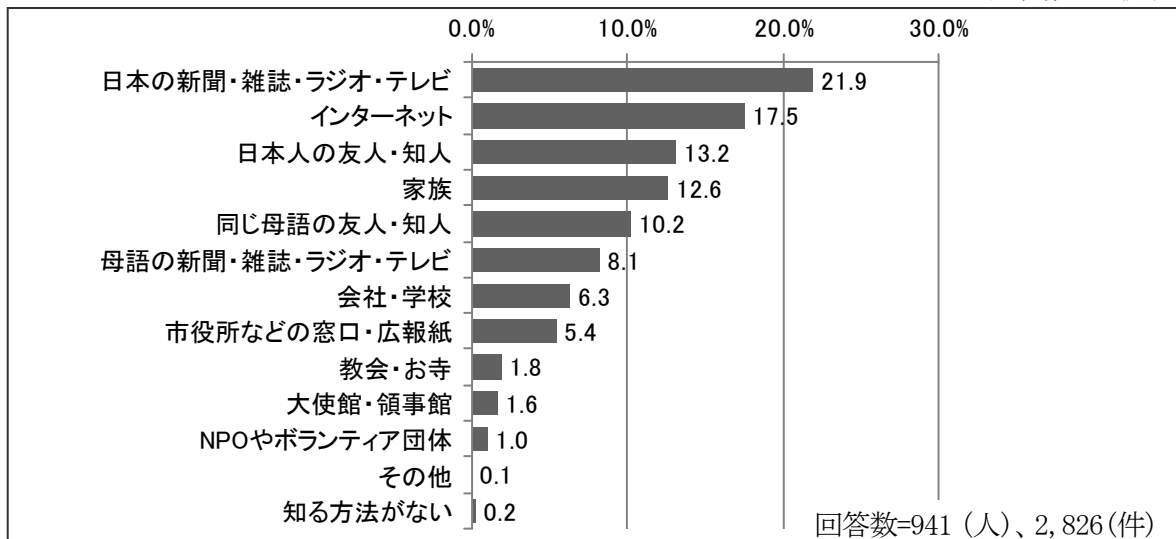
4. 情報について

4-1 生活に必要な情報の入手方法

Q11 あなたは、生活に必要な情報をどのようにして知りますか。(〇はいくつでも)

■ 図4-1 生活に必要な情報の入手方法

無回答数=12(人)



<結果概要>

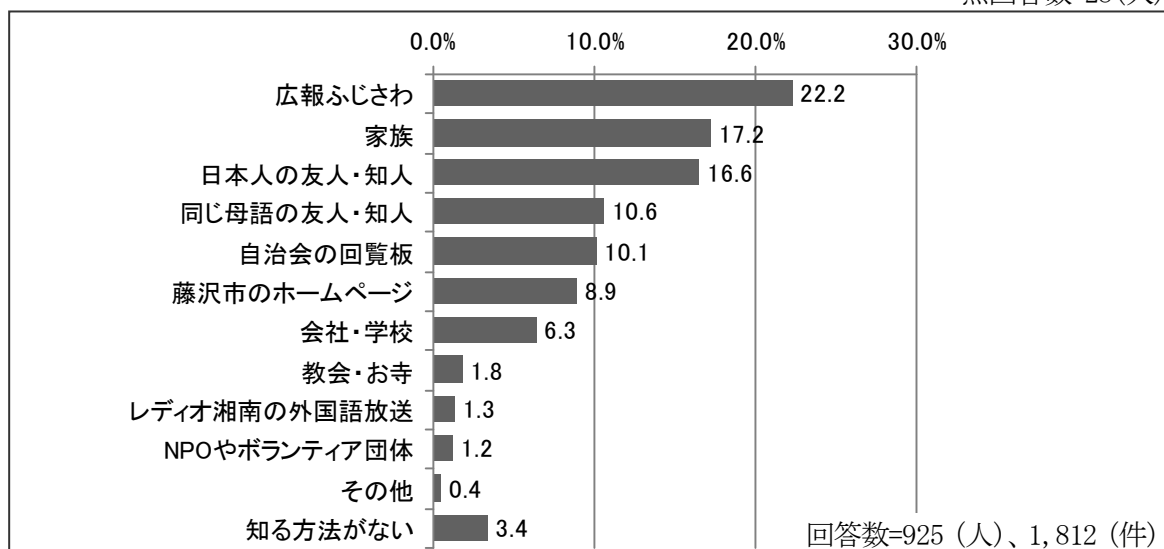
生活に必要な情報の入手方法は、「日本の新聞・雑誌・ラジオ・テレビ」が21.9%と最も多くなっている。次いで、「インターネット」の17.5%、「日本人の友人・知人」の13.2%、「家族」の12.6%、「同じ母語の友人・知人」の10.2%となっている。

4-2 市の情報の入手方法

Q12 あなたは、藤沢市の情報をどのようにして知りますか。(〇はいくつでも)

■ 図4-2 市の情報の入手方法

無回答数=28(人)



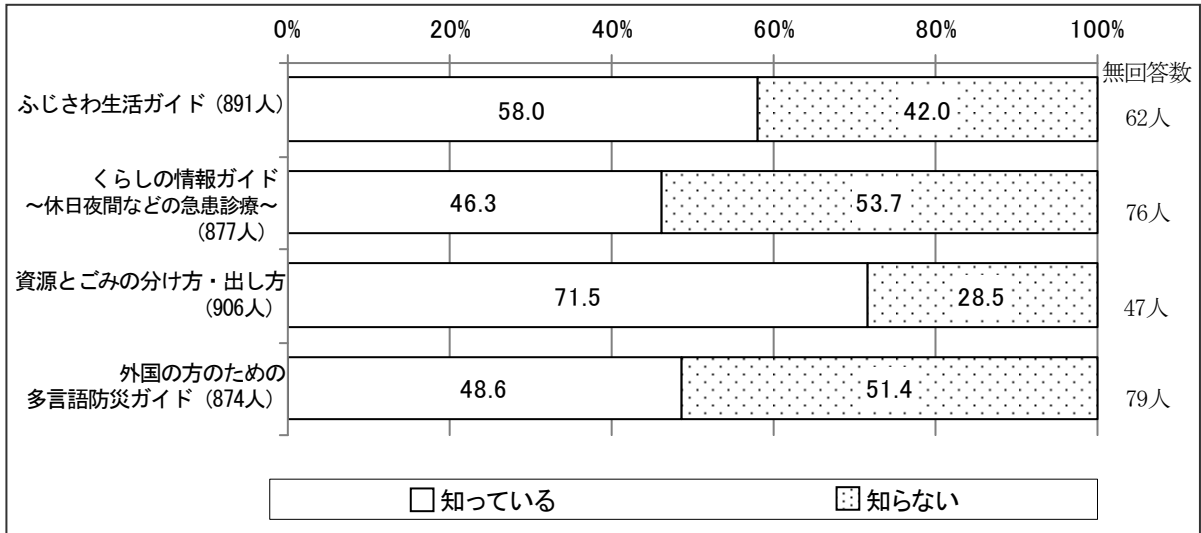
<結果概要>

市の情報の入手方法は、「広報ふじさわ」が22.2%と最も多くなっている。次いで、「家族」の17.2%、「日本人の友人・知人」の16.6%、「同じ母語の友人・知人」の10.6%、「自治会の回覧板」の10.1%となっている。一方、「藤沢市のホームページ」は8.9%であり10%に達していない。

4-3 市の多言語による情報提供の認知度

Q13 藤沢市では、外国語による情報提供を行うようにしています。あなたは、次の情報が、外国語で用意されていることを知っていますか。(〇は1つずつ)

■ 図4-3 市の多言語による情報提供の認知度



<結果概要>

市の多言語による情報提供の認知度は、「資源とごみの分け方・出し方」が71.5%と多くなっている。次いで、「ふじさわ生活ガイド」の58.0%、「外国の方のための多言語防災ガイド」の48.6%、「くらしの情報ガイド～休日夜間などの急患診療～」の46.3%となっている。

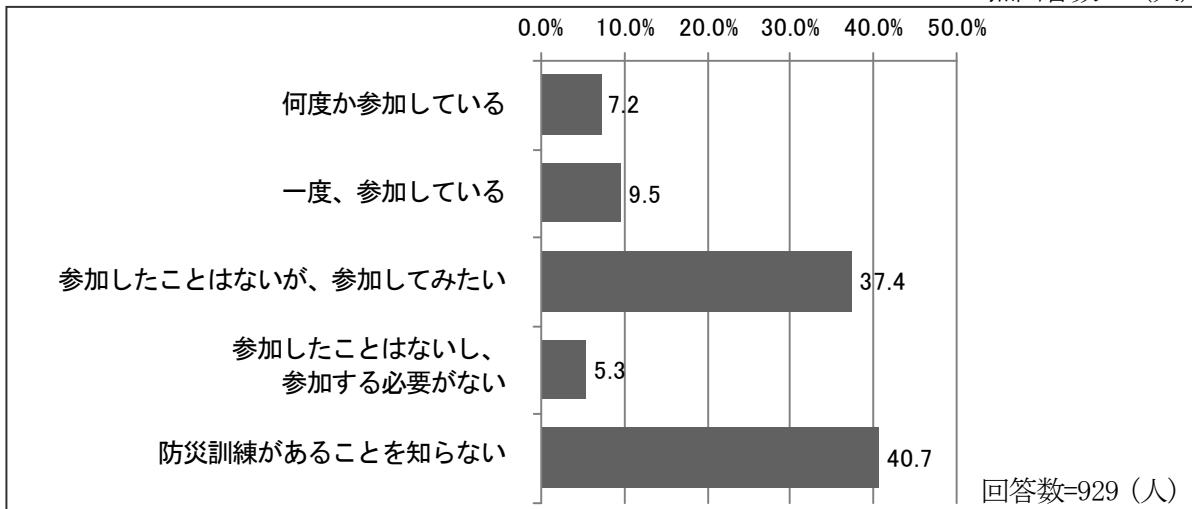
5. 防災などについて

5-1 防災訓練への参加状況

Q14 藤沢市では、毎年、地域ごとに防災訓練を行っています。あなたは、防災訓練に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

■ 図5-1 防災訓練への参加状況

無回答数=24(人)



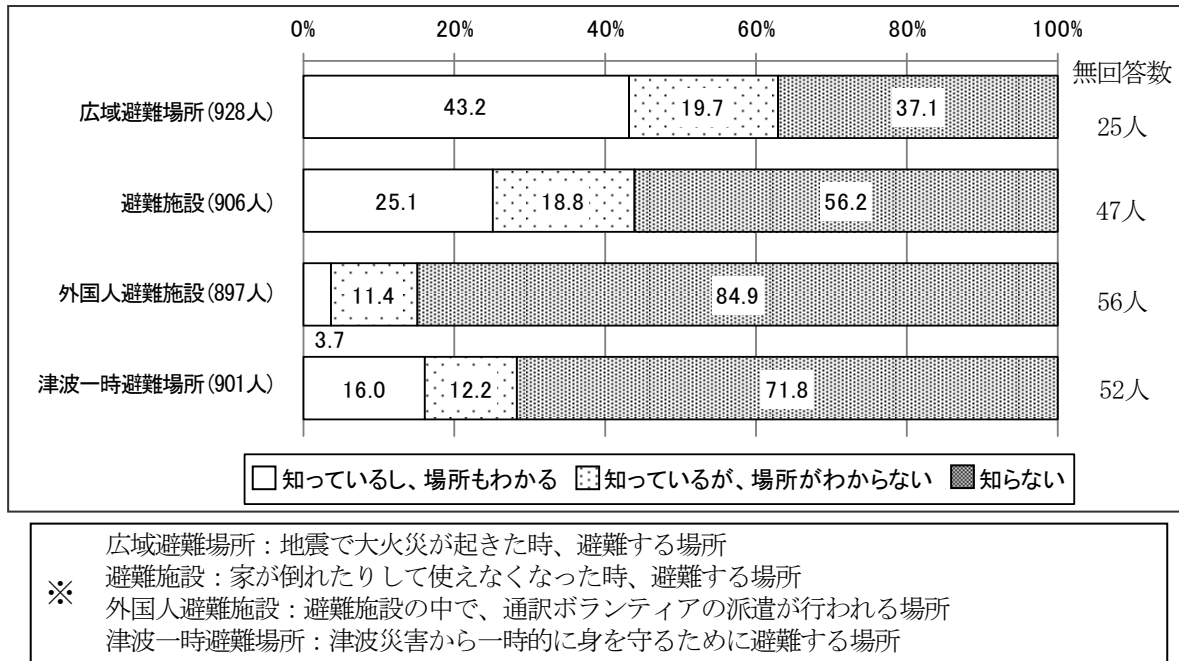
<結果概要>

防災訓練への参加状況は、「防災訓練があることを知らない」が40.7%と最も多くなっている。次いで、「参加したことはないが、参加してみたい」の37.4%、「一度、参加したことがある」の9.5%となっている。

5-2 避難場所の認知度

Q15 あなたは、災害が起きた時に避難する、次の場所を知っていますか。(〇は1つつ)

■ 図5-2 避難場所の認知度



<結果概要>

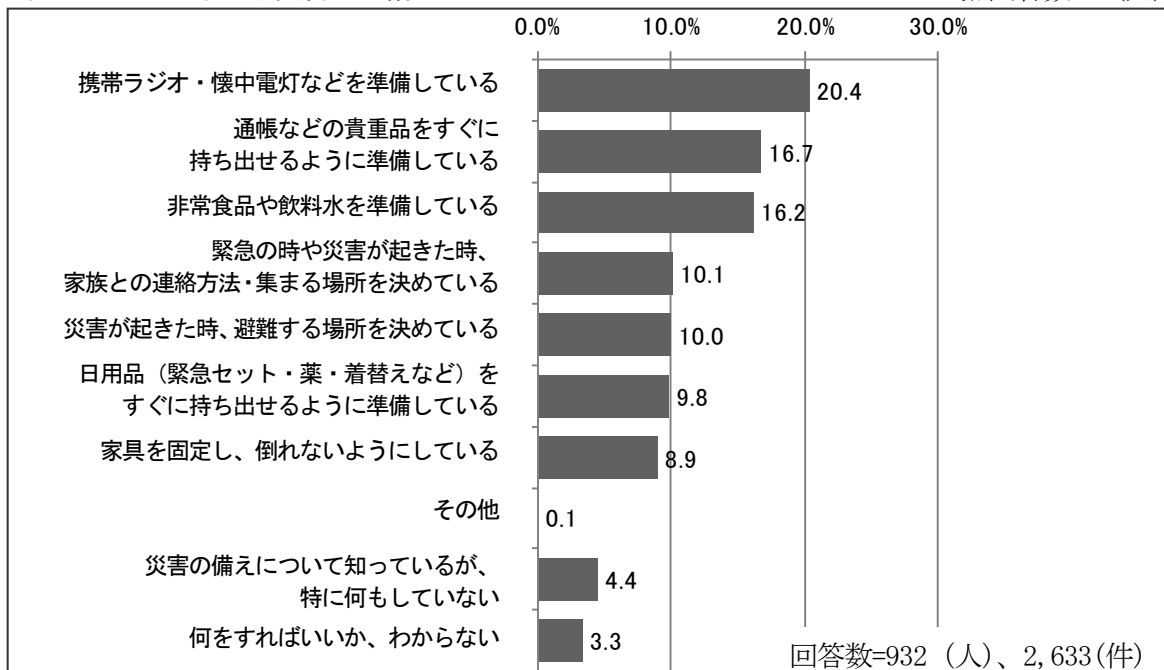
避難場所の認知度は、広域避難場所では「知っているし、場所もわかる」が43.2%と最も多くなっている。次いで、避難施設では「知っているし、場所もわかる」が25.1%、津波一時避難場所では16.0%となっている。なお、市内にある避難施設のうち、国際交流組織等の協力を得て、通訳ボランティアの派遣が予定されている施設である、外国人避難施設については、3.7%となっており、外国人避難施設の認知度が極端に低くなっている。

5-3 日常的な災害への備え

Q16 あなたは、日ごろから、災害（地震など）への備えをしていますか。(〇はいくつでも)

■ 図5-3 日常的な災害への備え

無回答数=21(人)



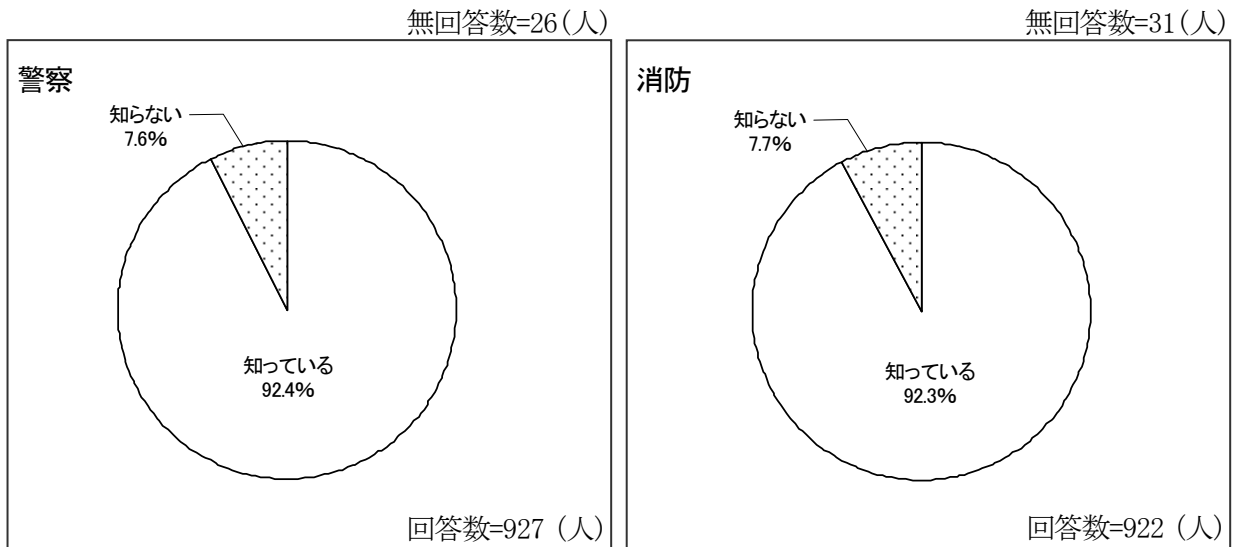
<結果概要>

日常的な災害への備えは、「携帯ラジオ・懐中電灯などを準備している」が20.4%と最も多くなっている。次いで、「通帳などの貴重品をすぐに持ち出せるように準備している」の16.7%、「非常食品や飲料水を準備している」の16.2%、「緊急の時や災害が起きた時、家族との連絡方法・集まる場所を決めている」の10.1%、「災害が起きた時、避難する場所を決めている」の10.0%となっている。

5-4 緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度

Q17 あなたは、緊急の時に連絡するための次の電話番号を知っていますか。（〇は1つずつ）

■ 図5-4 緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度



<結果概要>

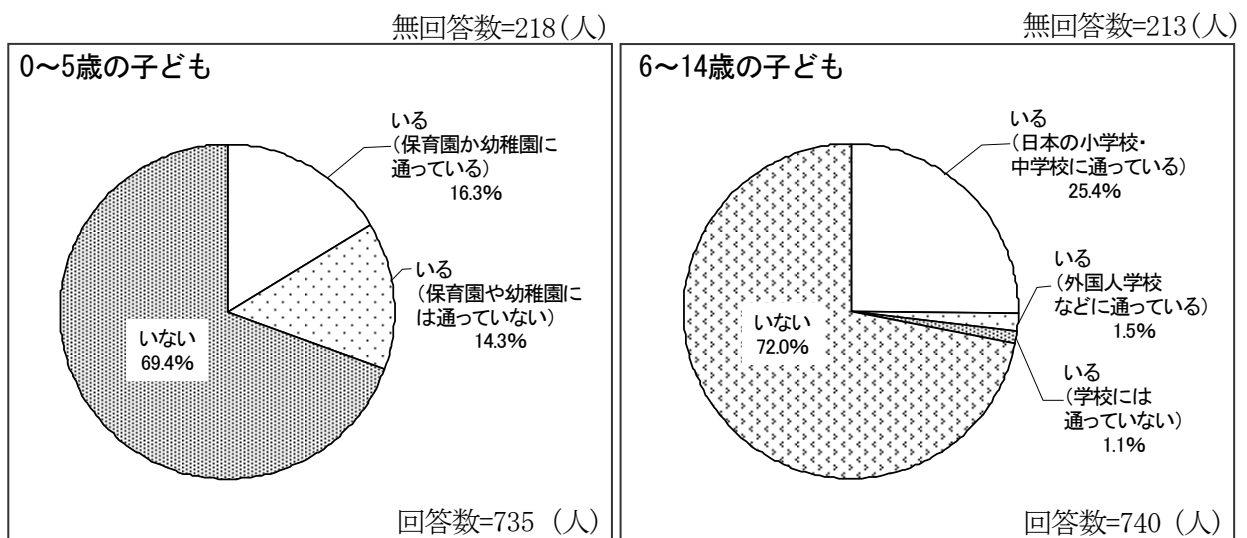
緊急時の連絡先（警察、消防）の認知度は、警察、消防ともに「知っている」がそれぞれ92.4%、92.3%と多くなっている。

6. 子育てについて

6-1 子ども（0~5歳、6~14歳）の有無

Q18 あなたには、0~14歳のお子さんがいますか。（〇は1つずつ）

■ 図6-1 子ども（0~5歳、6~14歳）の有無



<結果概要>

子ども（0～5歳）の有無は、「いない」が69.4%と最も多く、次いで、「いる（保育園か幼稚園に通っている）」の16.3%、「いる（保育園や幼稚園には通っていない）」の14.3%となっている。

子ども（6～14歳）の有無は、「いない」が72.0%と最も多く、次いで、「いる（日本の小学校・中学校に通っている）」の25.4%となっている。

0～5歳の子どもがいると回答した人は225人（うち0～5歳の子どものみの方は147人）、6～14歳の子どもがいると回答した人は207人（うち6～14歳の子どものみの方は129人）、いずれもいると回答した人は78人であり、全体としては、354人が0～14歳の子どもがいると回答している。

なお、当設問に対する無回答数が比較的多く見られるが、子どものいない回答者が自分に関係のない設問と判断し回答しなかったことが推測される。

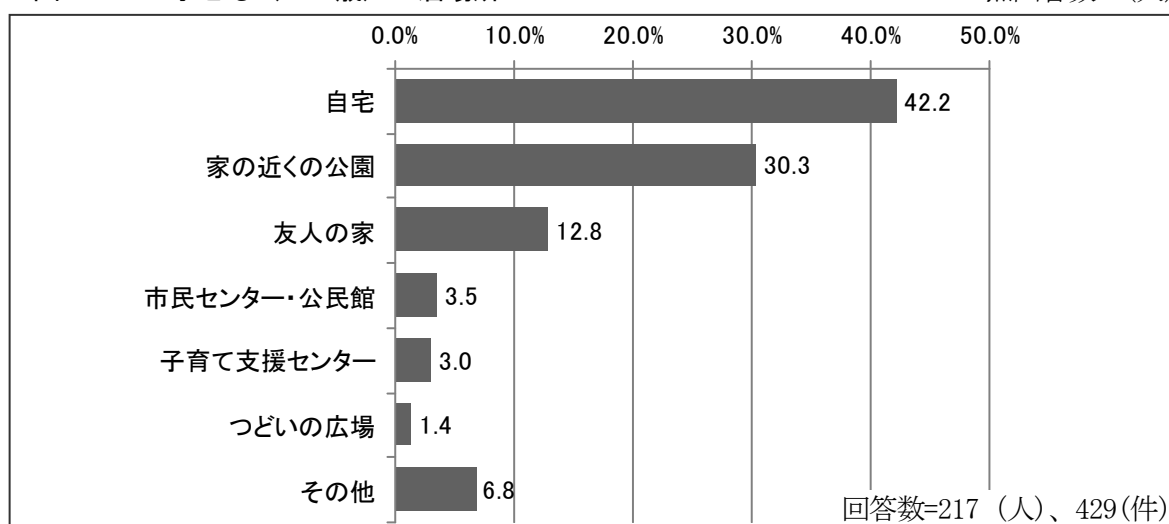
6-2 子ども（0～5歳）の居場所

Q19 0～5歳のお子さんがいる方にお聞きします。

あなたは、普段（日中）、お子さんと一緒にいる場所はどこですか。（〇はいくつでも）

■ 図6-2 子ども（0～5歳）の居場所

無回答数=8(人)



<結果概要>

子ども（0～5歳）の居場所は、「自宅」が42.2%と最も多くなっている。次いで、「家の近くの公園」の30.3%、「友人の家」の12.8%となっている。その他として、「デパート・ショッピングモール等の民間商業施設」が挙げられている。

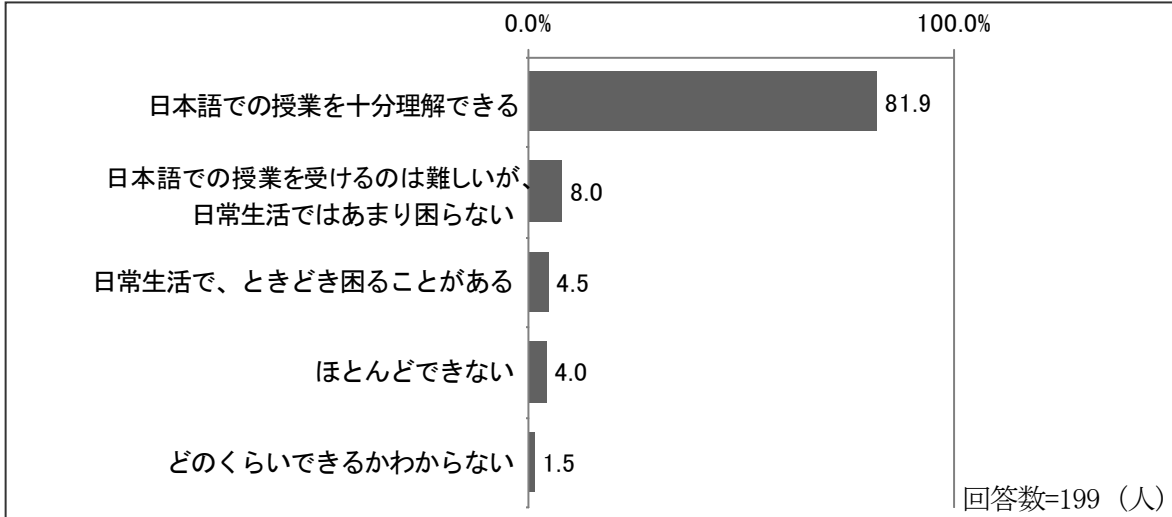
6-3 子ども（6～14歳）の日本語習熟度

Q20 6～14歳のお子さんがある方にお聞きします。

あなたのお子さんは、どのくらい日本語ができますか。（〇は1つだけ）

■ 図6-3 子ども（6～14歳）の日本語習熟度

無回答数=8(人)



<結果概要>

子ども（6～14歳）の日本語習熟度は、「日本語での授業を十分理解できる」が81.9%と最も多く、次いで、「日本語での授業を受けるのは難しいが、日常生活ではあまり困らない」の8.0%となっている。一方、「日常生活でときどき困ることがある」、「ほとんどできない」はそれぞれ4.5%、4.0%と少なくなっている。

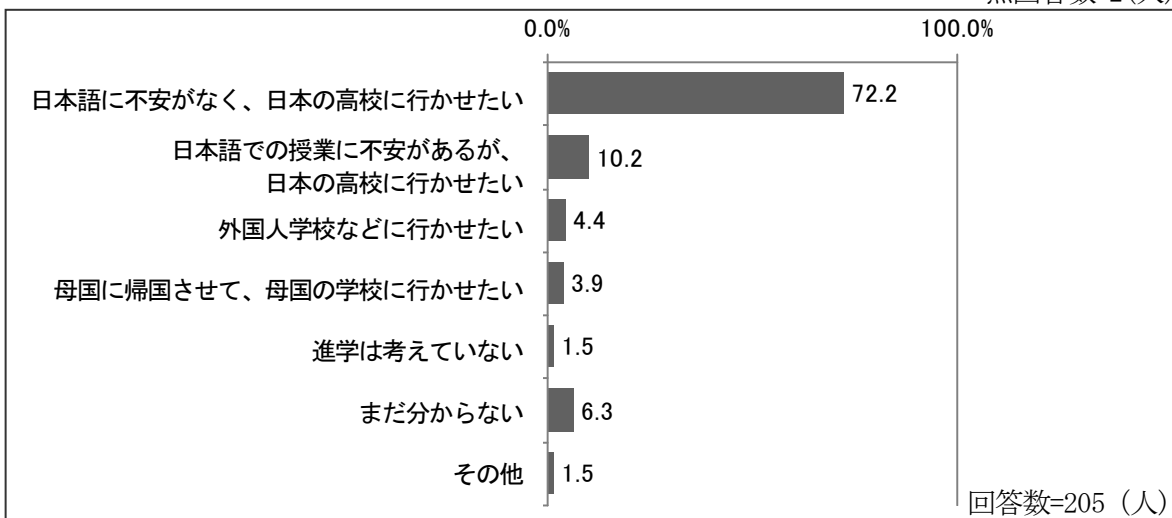
6-4 子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望

Q21 6～14歳のお子さんがある方にお聞きします。

中学校卒業後の進路について、どのように考えていますか。（〇は1つだけ）

■ 図6-4 子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望

無回答数=2(人)



<結果概要>

子ども（6～14歳）の中学校卒業後の進路希望は、「日本語に不安がなく、日本の高校に行かせたい」が72.2%と最も多く、次いで、「日本語での授業に不安があるが、日本の高校に行かせたい」の10.2%、「まだ分からない」の6.3%となっている。一方、「外国人学校などに行かせたい」、「母国に帰国させて、母国の学校に行かせたい」はそれぞれを4.4%、3.9%と少なくなっている。

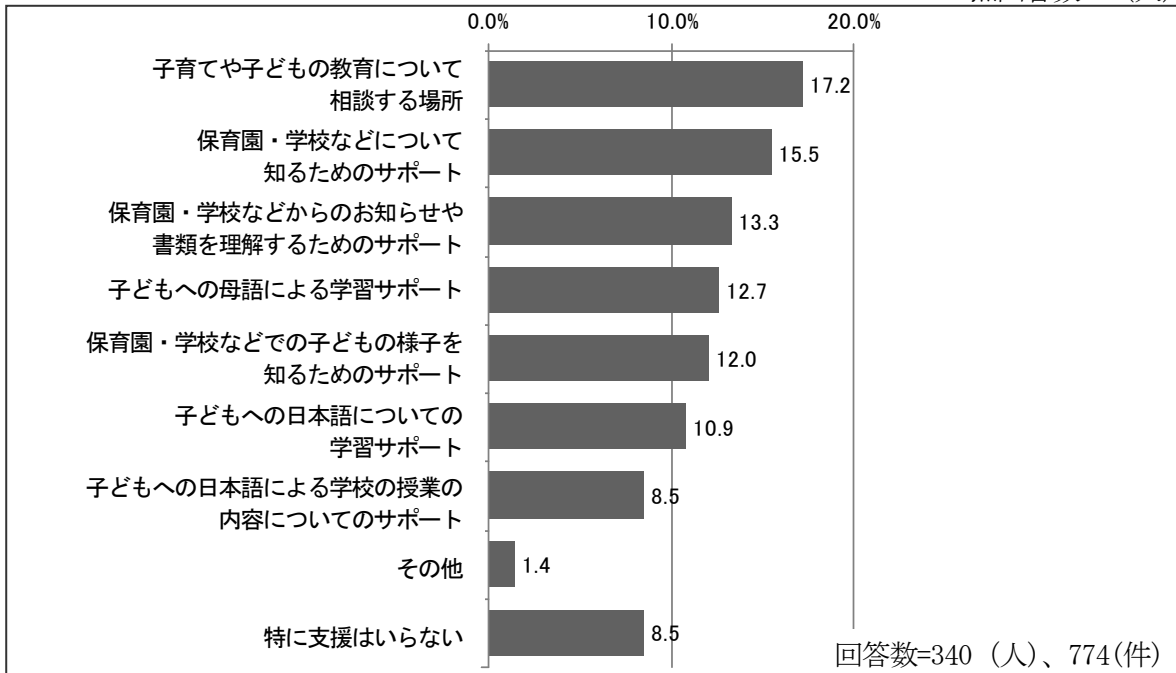
6-5 必要と思われる子育て支援の内容

Q22 0～14歳のお子さんがある方にお聞きします。

あなたは、子育てについて、どんな支援があればいいと思いますか。(〇はいくつでも)

■ 図6-5 必要と思われる子育て支援の内容

無回答数=14(人)



<結果概要>

必要と思われる子育て支援の内容は、「子育てや子どもの教育について相談する場所」が17.2%と最も多くなっている。次いで、「保育園・学校などについて知るためのサポート」の15.5%、「保育園・学校などからのお知らせや書類を理解するためのサポート」の13.3%、「子どもへの母語による学習サポート」の12.7%、「保育園・学校などでの子どもの様子を知るためのサポート」の12.0%となっている。

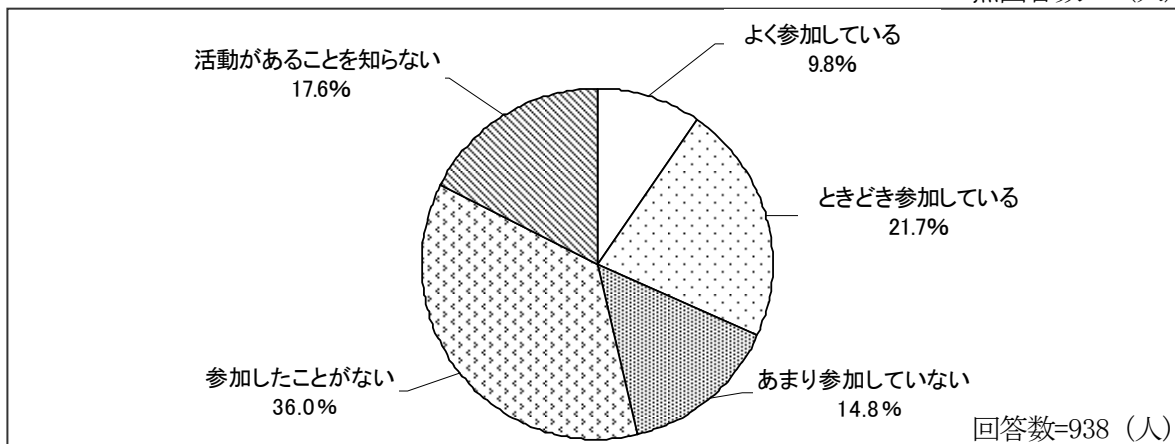
7. 地域活動について

7-1 自治会や地域の活動への参加状況

Q23 あなたは、自治会や地域の活動(町のそうじ・お祭りなど)に参加していますか。(〇は1つだけ)

■ 図7-1 自治会や地域の活動への参加状況

無回答数=15(人)



<結果概要>

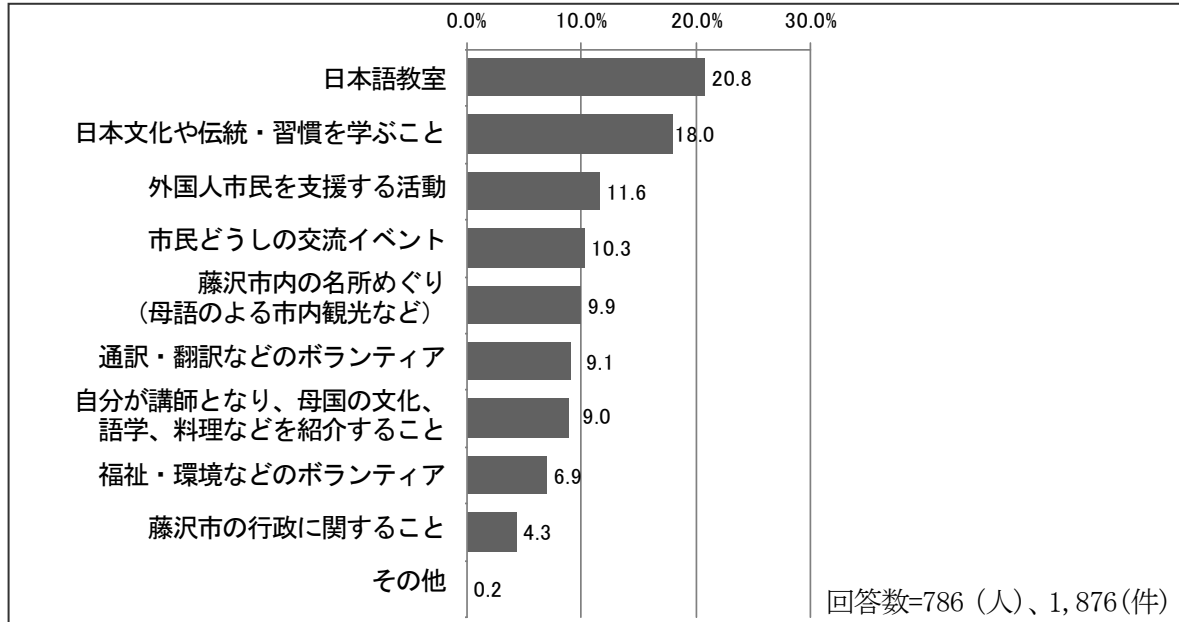
自治会や地域の活動への参加状況は、「参加したことがない」が36.0%と最も多くなっている。次いで、「ときどき参加している」の21.7%、「活動があることを知らない」の17.6%となっている。

7-2 講座や活動への参加意欲

Q24 あなたが次のうち参加してみたいと思うのはどれですか。(〇はいくつでも)

■ 図7-2 講座や活動への参加意欲

無回答数=167(人)



<結果概要>

講座や活動への参加意欲は、「日本語教室」が20.8%と最も多くなっている。次いで、「日本文化や伝統・習慣を学ぶこと」の18.0%、「外国人市民を支援する活動」の11.6%、「市民どうしの交流イベント」の10.3%、「藤沢市内の名所めぐり（母語による市内観光など）」の9.9%となっている。

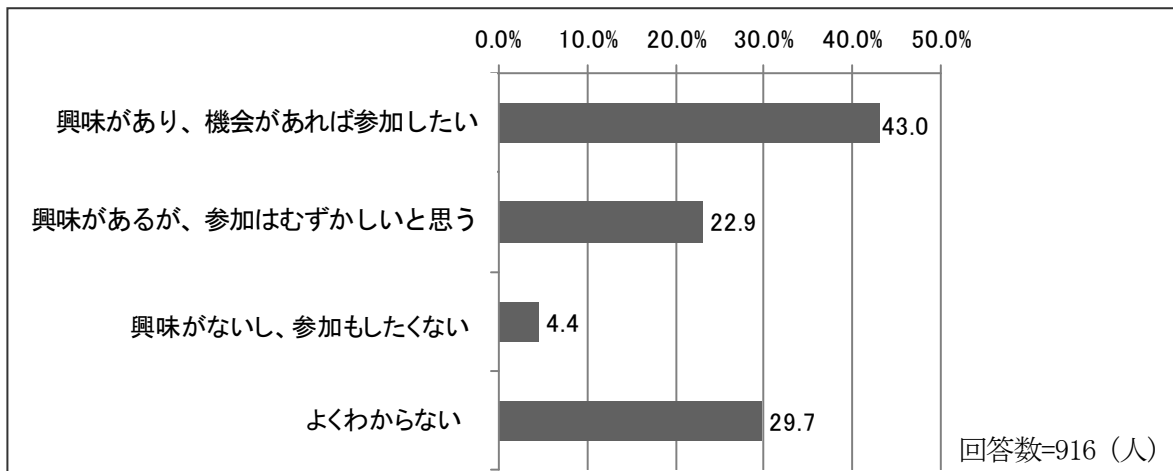
なお、当設問に対する無回答数が比較的多く見られるが、参加活動に対する関心や質問項目に対する興味あまり高くないことが推測される。

7-3 地域主体のまちづくりへの参加意欲

Q25 藤沢市では、市民と地域が中心になって、自分たちでまちづくりを進める取り組みがされていますが、そのことについてどのように感じますか。(〇は1つだけ)

■ 図7-3 地域主体のまちづくりへの参加意欲

無回答数=37(人)



<結果概要>

地域主体のまちづくりへの参加意欲は、「興味があり、機会があれば参加してみたい」が43.0%と最も多くなっている。次いで、「よくわからない」の29.7%、「興味があるが、参加は難しいと思う」の22.9%、「興味がないし、参加もしたくない」の4.4%となっている。「興味があるが、参加は難しいと思う」の理由として、仕事や言葉の問題、子育て等が挙げられている。